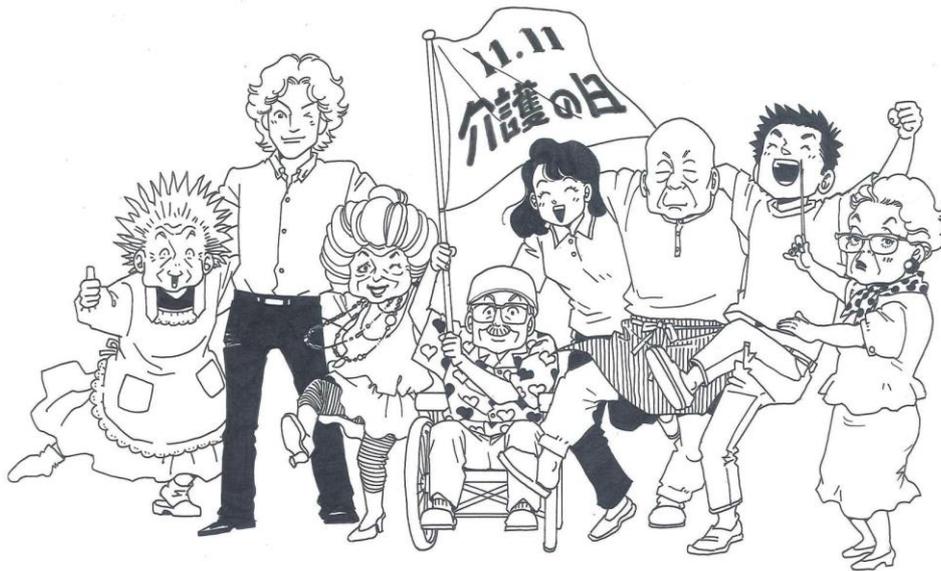


## 令和3年度全国教職員研修会 開催要項

### テーマ

未来（2040）を支える生活支援と介護福祉士

～地域の理解と協力のもとに～



© 講談社・ヘルプマン!・くさか里樹

- 開催日 令和3年11月17日（水）9時30分～16時
- 主催 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
- 主管 日本介護福祉士養成施設協会 中国四国ブロック会  
愛媛県介護福祉士養成施設協会
- 後援 厚生労働省、愛媛県、松山市、愛媛県介護福祉士会、愛媛県社会福祉士会、愛媛県精神保健福祉士会、愛媛県老人福祉施設協議会、愛媛県老人保健施設協会、愛媛県身体障害者施設協議会、愛媛新聞社、松山観光コンベンション協会



この研修会は、オートレースの補助により開催します。

<https://jka-cycle.jp>



# 開催要項

## 1. テーマ

「未来（2040）を支える生活支援と介護福祉士～地域の理解と協力のもとに～」

## 2. 主 旨

新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるい、日本においても、度重なる感染の波が私たちの生活を襲い、多くの尊い命が奪われました。また、現在も多くの方が自宅療養されています。この感染症は私たちの生活を大きく変化させ、ウィズコロナ（新型コロナウイルスとの共存や共生）が常態化し、3密回避、マスクの着用、手洗い、消毒、ソーシャルディスタンスなど、「新しい生活様式」への移行が進められてきました。これらは介護福祉教育にも多大な影響を与え、十分な感染防止対策が求められる一方で、学修者本位の教育活動の実施に努めなければならず、より効果的なオンライン授業の実施や教材開発、工夫した対面授業を模索することになりました。また介護実習においては従来通りの実習ができない状況の下、試行錯誤を繰り返し、新たな気づきや教育方法を見出すことに繋がっています（詳しくは介護福祉教育No.48、49をご覧ください）。

このため、昨年度の全国教職員研修会も中止せざるを得なくなりましたが、今年度は初めてのオンライン開催の運びとなりました。時間も限られ、直接的な交流ができないことは残念ではありますが、多くの方々との意見交換ができればと考えています。

今年度の研修会は、「未来（2040）を支える生活支援と介護福祉士～地域の理解と協力のもとに～」をテーマに、「生活支援」に焦点を当ててみました。「生活支援」の生活とは、生命の活性化の基盤となるものであり、そのために私たちはさまざまな生活行為を、自分の意思で決定して行っています。この生活行為は生理的な欲求だけでなく、精神的、社会的、文化的な欲求を満たす行為であるといわれています。つまり生活とは、人間が人間らしく生きるために行うさまざまな活動のすべてを意味しており、「生活支援」とは、それらを総合的に支える、まさにその人らしく生きることへの支援そのものだと言えるでしょう。

介護福祉士は施設や在宅を問わず、「生活支援」を担う専門職であることは言うまでもありません。「求められる介護福祉士像」にも、今回の改訂で「地域の中で施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる」という項目が追加されました。

しかし、介護保険では、生活援助を主とする訪問介護はどんどん細切れになって縮小し、介護福祉士養成カリキュラムでも、訪問介護実習は任意となり、生活基盤を支える家事機能に関する教育や研修に費やす時間は短くなっています。

一方で介護保険の2021年度改定では「データに基づく科学的介護の推進」が開始される中、この先の未来（2040）を確実に支えていく介護福祉士が担う「生活支援」のあり方について、目の前の現実や実践を通して再考しながら、今後の介護福祉士養成教育の課題や、地域共生社会を意識した養成施設と地域との関係づくりについても、議論を深めたいと考えます。

この研修会が、皆様にとって有意義な機会となりますことを、中国・四国ブロック会員一同で願いつつ、ここにご案内申し上げます。

中国四国ブロック会会長 秋山 昌江

# プログラム

時 間	内 容
9 : 30～10 : 00	開会式 主催者挨拶 日本介護福祉士養成施設協会 会長 澤田 豊 開催県挨拶 学校法人河原学園 理事長 河原 成紀 実行委員長挨拶 中国四国ブロック会 会長 秋山 昌江
10 : 00～10 : 30	厚生労働省報告： これからの介護福祉教育の方向性と展望 厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 室長 田中 義高 氏
10 : 40～12 : 00	基調講演：これからの生活支援に求められること －在宅障害者への訪問介護サービスを通して－ 訪問介護事業所 ASU ホームヘルパー 木原 健太氏
12 : 00～13 : 00	昼休憩
13 : 00～14 : 45 (休憩あり)	分科会 第1分科会 介護過程教育力向上を目指して 第2分科会 介護福祉士にとってのチームマネジメント 第3分科会 外国人留学生養成教育のみらい －国家試験合格に向けての教育事例－ 第4分科会 在宅における看取りと生活支援の必要性
15 : 00～16 : 00	講演：介護最前線のリアル（撮影）に拘る理由 ケアワーク・フォトライター 野田 明宏 氏
16 : 00～	閉会式 閉会挨拶 教育力向上委員会委員長 野田 由佳里 次期開催地挨拶 東海北陸ブロック会 会長 吉川 杉生

## 研修会開会行事

9:30～10:00

- 主催者挨拶  
日本介護福祉士養成施設協会  
会長 澤田 豊
- 開催県挨拶  
学校法人河原学園  
理事長 河原 成紀
- 実行委員長挨拶  
中国四国ブロック会  
会長 秋山 昌江

## 厚生労働省報告

10:00～10:30

- これからの介護福祉教育の方向性と展望  
厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 室長 田中 義高 氏

## 基調講演

10:40～12:00

- 基調講演 「これからの生活支援に求められること」  
ー在宅障害児・者への訪問介護サービスを通してー  
訪問介護事業所 ASU ホームヘルパー 木原 健太 氏

## 分科会

13:00～14:45

- 分科会
  - 第1分科会 介護過程教育力向上を目指して
  - 第2分科会 介護福祉士にとってのチームマネジメント
  - 第3分科会 外国人留学生養成教育のみらい  
ー国家試験合格に向けての教育事例ー
  - 第4分科会 在宅における看取りと生活支援の必要性

## 講演

15:00～16:00

- 講演： 介護最前線のリアル（撮影）に拘る理由  
ケアワーク・フォトライター

野田 明宏 氏

## 閉会行事

16:00～16:30

- 閉会式  
閉会挨拶 教育力向上委員会

委員長 野田 由佳里

- 次期開催地挨拶  
東海北陸ブロック会

会 長 吉川 杉生

## ～ Information ～

### 日本介護福祉教育学会正会員募集中

日本介護福祉教育学会では、正会員を募集しています。「日本介護福祉教育学会」は介護福祉士の養成に関わる教育内容及び教育技術の学術的向上発展を推進し、会員相互の緊密な学問的交流並びに介護福祉教育の普及を通じ、国民福祉の増進に寄与することを目的としています。活動としては、学術集会(大会)、講演と学会員による研究発表が主に行われ、学会総会も開催。また学会誌は「学術集会(大会)の特集」と「投稿論文特集」で、年2回発行され、会員の皆様へお届けしています。学会事務局は日本介護福祉士養成施設協会が兼ねていますので、ぜひ、会員校の先生方のご入会をお待ちしています。

入会に関する詳しい内容は、日本介護福祉士養成施設協会ホームページ、日本介護福祉教育学会をご覧ください。。 <http://kaiyokyo.net/gakkai/index.html>

### 学会誌『介護福祉教育 No.52』投稿論文募集中

日本介護福祉教育学会では、正会員の皆様の投稿論文を募集しています。学会誌は、会員の皆様の研究発表の場としてご活用いただくため、内容の充実をはかっています。

なお、48・49号は「新型コロナウイルス感染拡大下における介護実習の現状と課題」をテーマに緊急特集を組み、すべての会員校に贈呈させていただきました。

50・51号は合併号として、学会25周年、学会誌50号記念特集の準備を進めています。

**今回の投稿原稿募集は2022年7月発行予定の52号で、提出締め切りは2022年2月末です。**

皆様の投稿をお待ちしております。

投稿に関する詳細は、学会誌の末尾にある執筆規定をご参照ください。

これからの介護福祉教育の方向性と展望

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課

福祉人材確保対策室 室長 田中 義高 氏

「これからの生活支援に求められること」

－在宅障害者への訪問介護サービスを通して－

講演者： 訪問介護事業所 ASU ホームヘルパー 木原 健太 氏

木原 健太 氏（訪問介護事業所 ASU ホームヘルパー）

【プロフィール】

広島介護福祉士養成校を卒業後、介護福祉士として、ビルのメンテナンス会社が新設したケア事業部の常勤ヘルパーとして5年間勤務。その後、KENTA KIHARAとして、ソロでの音楽活動を開始するが、同時に、パートのホームヘルパーとしても13年勤務し続け、ホームヘルパー歴18年目となる。

介護福祉士養成校の授業のゲストスピーカーを引き受け、2013年の広島開催の全国教職員研修会懇親会にもゲスト出演しており、様々な地域イベントへの参加もおしまない。

最近では、自主制作CDを3枚リリースし、同級生の音楽トリオK. S. KProjectのメンバーとしても活動している。

2018年4月より、FMちゅーピーの番組「広島すまいるパフェ」「朝ラジ」でレギュラーコーナーを担当。一声入魂で、聴衆の心に響く音楽を届けていくために、広島を拠点に活動している。

## テーマ「これからの生活支援に求められること」

### －在宅障害者への訪問介護サービスを通して－

訪問介護事業所 ASU ホームヘルパー

木原 健太 氏

#### 1. はじめに一自己紹介を兼ねた今の働く環境の紹介

ホームヘルパー歴 18 年（常勤 5 年後、音楽活動のためパート勤務 13 年目）

現在、4 事業所掛け持ちで、12 人の利用者を担当（内、10 人が障害者）

- 日勤のみの事業所・夜勤のみの事業所・日勤・夜勤両方ある事業所があり、シフト提示も 1 週間のところと、1 か月のところがある。
- 希望休を出しても、他のヘルパーの事情や人手不足もあり、出勤となることも多い。
- 月収は手取りで約 40 万円（時給は日勤 1,200 円、夜勤 1,500 円）

#### 2. なぜ介護福祉士を目指したか、そしてホームヘルパーという仕事に出会って...

9 人家族で、曾祖父母や祖父母との暮らしの中で

保育士か介護福祉士か

印象的だった介護福祉士養成施設での訪問介護実習

食事、水分補給、排泄ケアの時間など、全てが利用者主体で、利用者のその時々  
のペース（体調や気分）や生活スタイルに合わせた向き合い方に魅力を感じた。

卒業後、ビルメンテナンス会社が新設したケア事業部の常勤ヘルパーとして就職

初めての男性ヘルパーで、受け入れてくれる利用者探しから始まる

独居で未婚女性、元教員で退職後、保護司であった利用者との出会い

##### ●初日の言葉

「大丈夫！どこのお宅を訪問しても笑われないように、社会人としてのイロハを教えてあげるから、心配ないわよ！！」⇒玄関での靴の脱ぎ方、掃除の仕方（上から順番にほこりを払い落とし、畳の目に沿って掃いたり掃除機をかける。水を何度も入れ替え雑巾で拭く）、水を使わない煮物の作り方などの指導を受ける。

##### ●就職 1 年後、この仕事は本当に自分に向いているのだろうか、と考えていた時の言葉

「どんなことがあっても 3 年間は頑張りなさいね。いろいろ周りが見えてきて、今よりもっと楽しくなると思うから！！」⇒その言葉に励まされ、3 年後には、自分の援助スタイル（必要とされたとき、人は輝く）が確立。

就職後 3 年目から音楽活動開始。介護と音楽活動から学び合い生かし合っ  
ての今…仕事はとても面白く、やりがいがあり、日々学び続けている。

### 3. 事例を通して生活支援の意味を考える

#### ① ライブに行く日まで、カラオケに通い、一緒に歌う練習をしたい

—早産による脳室周囲白質軟化症で、特別支援学校高等部に通う青年への支援—  
本人と両親の3人家族。

特別支援学校高等部に通学し、放課後等デイサービスを利用してから帰宅。

3か所の訪問介護事業所が週1回2人体制での入浴介助に1時間訪問。

\*ライブに向けて「歌の練習がしたい」という自発的な言葉の中に込められた本人の思いを受け止め、家族や関係者の協力を得てヘルパーがサポートしてそれを実現することで、本人の意欲向上につながり、若い障害者への自立支援の課題がみえた。

#### ② 全介助で胃ろうの60代の利用者の離床を目指すため食事支援の工夫

自殺未遂の後遺症で低酸素脳症。

68歳の妻と二人暮らし。何かあれば娘が協力してくれる。

ヘルパーは日勤(9:00~18:00)と夜勤(21:00~6:00)。それ以外の時間は妻。

木原は週5日、日勤で訪問。

朝・昼・晩と高カロリー注入食(メイバランス)1パック(200ml)だったが…

\*本人の「離床するためのリハビリを受けたい」、妻の「高カロリー注入食だけに頼りたくない」という思いを受け止め、筋肉をつけるために、主治医や訪問看護師にも相談し、家族の思いと介護福祉士の視点で取り組んだ食事支援への取り組みを振り返る。

#### ③ クロウン病で全介助の30代男性の日常生活支援に問われる視点

両親・兄・本人の4人家族。

高校2年生の時、クロウン病発症。

高校は中退し、最近では、自分の部屋のベッドで1日を過ごすことが多い。

ベッドから車椅子への移乗・車椅子操作は全介助

体調の良い時はベッドに座り、エレキギターを弾くこともある。

訪問介護—毎日、朝・昼・夕の3回訪問

木原担当—週3回(月)13:00~14:00 2人体制で入浴介助

(火)12:30~14:30 生活介護30分(掃除)、  
身体介護90分

(水)9:00~10:30 身体介護60分

訪問看護—月1回、訪問リハビリ—毎週(火)、訪問入浴—毎週(水)

\*「一日中、部屋の中にいると、時々、気が滅入る…」「この先、在宅での生活を続けることができるのだろうか…」という利用者の不安に、私たちはどう向き合うか。

### 4. 訪問介護サービスを通して考える介護福祉士の生活支援に求められること

## 介護過程教育力向上を目指して

## 主 旨

介護過程は、2009年、介護福祉士養成の教育課程に位置づけられ、2018年には、「本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする」こととして、教育のねらいが示され、求められる介護福祉士の専門性としてその重要性は増している。

介護福祉実践にとって不可欠である介護過程の教育方法については、これまでも様々な検討がなされており、教授・指導方法や教材開発、介護福祉実習における実習施設と養成校の連携強化の重要性等が求められている。

そこで、第1分科会では、昨年の「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業」の報告に加え『「ヘルプマン！」に学ぶ介護過程』を題材に、今後の介護過程教育の在り方、新たな教材と活用・指導方法について共有する機会としたい。

## 発題者：

伊藤 優子 氏（北海道医療大学 先端研究推進センター 客員教授）

## 【プロフィール】

特別養護老人ホームでケアワーカーや生活相談員として勤務。

龍谷大学短期大学部社会福祉学科で、介護福祉士や社会福祉士の養成に携わる。

厚生労働省社会援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室で、介護福祉専門官として5年間従事。主に介護人材確保対策として、介護福祉士や社会福祉士のカリキュラム改正、外国人介護人材に関する制度設計等に携わる。

現職は、北海道医療大学先端研究推進センターの客員教授、社会福祉振興・試験センター試験制度等調査研究員。

八木 裕子 氏（東洋大学 ライフデザイン学部生活支援学科 准教授）

## 【プロフィール】



## 著者プロフィール

## 八木 裕子 (やぎ ゆうこ)

東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 准教授  
博士（介護福祉・ケアマネジメント学）  
介護福祉士・社会福祉士・保育士

介護福祉士・社会福祉士の養成に従事する傍ら、週末はホームヘルパー・ガイドヘルパーとしても活躍。また被災地にはDCAT（災害派遣福祉チーム）として、被災者のケアに駆けつける。日々奮闘しながら、現場の最先端の話を学生に伝えながら、「介護とは何か」を問い続ける。「エビデンスに基づき考えて行動できる福祉士」の養成を目指す。

『ヘルプマン!! 一取材記』(朝日新聞出版) 第6巻の「介護現場1992」編では、介護の道を選ぶきっかけとなった事件に漫画の主人公として登場している。

## 発表 1

### テーマ「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業」について

北海道医療大学先端研究推進センター

伊藤 優子 氏

#### ◆「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業」の背景

介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応するために、適切に利用者等のニーズ・課題を捉えた上で支援を行っていく介護過程の展開の実践力が求められている。しかしながら、現状では、自らの役割として介護過程の展開に中心に関わっている介護職は少ないことが、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会報告(平成 29 年 10 月 4 日)において指摘された。

介護福祉士には、介護の専門職としての中核的な役割を担うことが求められており、介護過程の学習内容の充実が必要であるとされ、「介護過程におけるアセスメント能力や実践力の向上」が、カリキュラムの見直しの観点の 1 つとされた。

#### ◆調査研究の目的

介護過程は、学内における学びと介護実習での実践において、その実践力を養っていくが、養成校によって修業年限が異なることから、実習時期やその実習における介護過程の到達点などが様々であり、教授法や実習施設との連携等、課題も多い。

介護過程の教授法の実践力の向上を図ることを目的に、養成校が介護過程の教授において課題に感じていること、教授法の工夫等について調査研究を行った。

#### ◆研究の成果

介護過程については、各養成校が教授における課題と感じていることに対して、事例の工夫や介護過程の展開用紙に用いる記録用紙をはじめとし、様々な取り組みを行っていることがわかった。就学期間や実習の時期によって到達点も様々であることから、統一した様式やガイドラインの作成ではなく、それぞれの課題に対する取り組み事例として報告書をまとめた。また、本調査研究の成果をまとめ、養成校・福祉系高校教員、実習受け入れ施設合同で、5 会場で研修会を実施した。

#### ◆本日の発表の概要

上記の調査研究を行うなかで、各養成校の先生方が学生の理解を深めるために、様々な工夫をされていることがわかりました。ある学校で課題に感じていることの解決へのヒントが、他の養成校の取り組みの中にあたりもします。

限られた時間ではありますが、調査研究で得られた内容を先生方にご紹介させていただくことで、それぞれの学校で現在取り組んでおられる介護過程の教授法の更なる深化と今後の教育研究に繋げていただければと思っています。

## 発表2

### テーマ 教育力向上を目指して

#### —『「ヘルプマン！」に学ぶ介護過程』を題材に—

東洋大学 ライフデザイン学部生活支援学科

准教授 八木 裕子 氏

### はじめに

#### 1. 漫画「ヘルプマン！」との出会い

- ・実は2006（平成18）年の全国教職員研修会（in 香川）でも発表

#### 2. 「ヘルプマン！」を教材に使う理由

- ・他の介護・福祉系のコミックとの違い
- ・学生の多様性に対応した教材の選定

#### 3. 介護過程を教授・指導する視点として

- ・『「ヘルプマン！」に学ぶ介護過程』を書くにあたって
- ・漫画家のくさか里樹さんにインタビュー  
（くさかさんに登場していただく予定です）
- ・よりよいケアを行なっていくプロセスとして
- ・面白さや魅力を伝えていく教育を

### おわりに

## 介護福祉士にとってのチームマネジメント

## 主 旨

今回のカリキュラム改訂では、領域「人間と社会」の「人間関係とコミュニケーション」の時間が拡大され、「チームマネジメント」30時間が新たに立ち上がった。

そして今年度より1年制から4年制までのすべての過程での開講となったが、この科目では、これから介護場面での中核的存在として期待される介護福祉士が学ぶ「介護福祉実践におけるチームマネジメント」であることが期待されている。しかしその教育内容はまだ手探りであり、今後の研鑽が求められる。

第2分科会では、この部分のテキスト作成のために重ねられた議論を踏まえて、第1節の執筆者に、その執筆の経過や意図・ねらいを改めてご報告いただくとともに、この部分を担当する、またこれから担当予定である先生方のご意見や、すでに現場で働いている卒業生の声にも耳を傾け、この科目の模索への第1歩としたい。

## 発題者：

荒木 和美 氏（社会福祉法人相扶会

老人ホーム寿園・相扶園 次長・第二相扶園・本町相扶園 園長）

## 【プロフィール】

- (1) 学歴 社会福祉学修士
- (2) 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕
  - ・特養、在宅介護支援センター、デイサービスの相談業務 約30年
  - ・介護福祉士養成校 非常勤講師（平成3年度～22年度まで）  
（老人福祉論・ケアマネジメント・社会保障論他）
  - ・看護学校 非常勤講師（平成23年度から平成29年度まで）
  - ・介護支援専門員実務研修・更新研修の指導等
- (3) 現在の所属 社会福祉法人相扶会
  - 老人ホーム寿園・相扶園 次長・第二相扶園・本町相扶園 園長
  - ・広島県介護支援専門員協会研修センター副センター長・監事
  - ・介護認定審査会委員
  - ・広島県地域包括支援センター協議会 理事 他
- (4) 資格
  - 介護福祉士・社会福祉士・主任介護支援専門員

吉岡 俊昭 氏

(学校法人木村学園トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科長)

【プロフィール】

島根県の特別養護老人ホームで介護職員、生活相談員として勤務。

その後現職であるトリニティカレッジ広島医療福祉専門学校に勤務し、現在は介護福祉学科の学科長を務める。

また教員として人材育成を行う傍ら、小学校から高校までの学生を対象に介護の仕事の魅力伝える活動、施設等での実技指導や「地域で生きる」をテーマに各地域での講演会なども積極的に行っている。

令和元年度より公益社団法人広島県介護福祉士会の会長も務めている

## 発表 1

### テーマ「介護実践におけるチームマネジメントの意義」

社会福祉法人相扶会 老人ホーム寿園・相扶園  
次長 荒木 和美 氏

## 1 はじめに

### 1) 介護現場で感じる介護福祉士の役割（位置）

- 介護福祉士は、経験を問わず介護福祉職のリーダー的な役割を担う存在
- ・たとえ、社会経験や職場のルール、コミュニケーションが苦手でも・・・  
しっかりとした信念、基礎的な介護技術を持っている専門職である。
  - ・介護人材の多様化（スキル・経験・年齢等）が介護福祉士の役割を浮かび上がらせた。

### 2) 介護福祉士にチームマネジメントが求められる理由

- ①介護人材とリーダーの不足
- ②人材の多様化
- ③ケアマネジメントと介護過程の関係
- ④生活を継続的に支える介護サービスの特性

### 3) テキストの構成

#### 介護実践におけるチームマネジメント

第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義

第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント

第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント

第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント

チームマネジメントの3つの柱

## 2 教科の中で大切にしたいこと（基本）

### 1) 「ヒューマンサービスとしての介護サービス」（1節の1）は、教科の出発点

- ・介護をチームで担う意義が凝縮されている部分

#### ①ヒューマンサービスとしての介護サービス

（「サービス」という固有の視点から4つのポイント）

抽象的な内容なので具体例・実例が必

#### ■無形性（「かたち」がない）

形のある商品と比較すると評価や効果を把握することが難しい。

#### ■不可分性（わけることができない）

生産（提供）と同時に消費される。やり直しが聞かない。

■品質の変動性（品質が変わる）

提供される人やタイミングで品質が異なる。

■消滅性（ためておくことができない）

ためておくことができない。保管、蓄積することができない。

②一般のサービスと介護サービスの違い（2つのポイント）

■サービスの受け手・送り手の「相互関係」と「倫理・専門性」が重視される。

■障害や疾病、特定のニーズや専門分野だけを見るのではなく、人としての全体（を継続的に）をとらえる視点を持つ。そのため、みずからの専門分野と多職種との連携が必要。

### 3 チームマネジメントとは何か

#### 1) テキストでの説明

チームが行動するために必要な目標を設定し、目標達成のためにさまざまな資源を効率的に活用する仕組みを整えるはたらきのこと。

言い換えると、チームメンバー全員が、役割と責任をもって、チームの力、サービスの質を高めるために行うために行う幅広い取組み<sup>※1</sup>をさす。

管理職、ベテラン職員、新任職員もチームマネジメントにかかわる大切な存在。介護福祉士は役職や経験を問わずチームメンバーのなかで大きな責任、期待を寄せる存在。（テキストより引用）

#### 2) 「幅広い取組み」<sup>※1</sup>とは何か

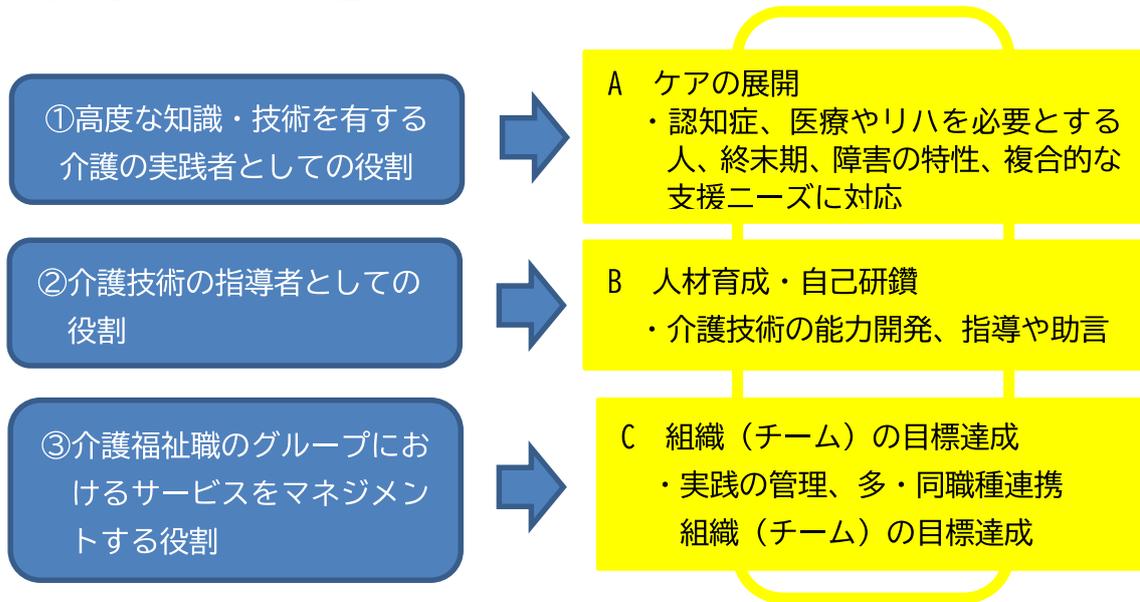
3つの柱として整理

① ケアの展開

② 人材育成・自己研鑽

③ 組織の目標達成

## 介護福祉職のリーダーが担う役割



A、B、Cは相互に必要として補い、強める関係  
(※テキストの図を参考に説明いただきたい)

①、②、③の項目は、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」2017を参考

### 執筆時に考えたこと・・・

○チームマネジメントの用語の整理や基本的な考え方を整理しながら、所属法人の施設や事業所において、介護福祉職の業務の洗出しを行った。

「チームで実践しないと行えない業務」

「チームで行っている業務・その他の業務」

「チームリーダー（管理職）が行っている業務」等

内容は異なっても、メニューそのものにはそれほど差はない？

○チームマネジメントと呼べる実践は幅広い。介護福祉士の大部分の仕事はチームで行うもので、単独の仕事は限られる。

チームマネジメント整理するためのわかりやすい柱だてが欲しかった。

○上記の社会保障審議会の資料を読んで、介護福祉職のリーダーが担う役割をチームマネジメントの取り組みの柱と重なると考え、3つの柱だてとして整理した。

## 4 ケアを展開するためのチームマネジメント

### 1) ケアを展開するためのチームの基本的な考え方

- ①介護福祉士は仕事をする中でさまざまなチームに属する。
  - ・同職種チーム
  - ・多職種チーム
  - ・法人や事業所
- ②チームメンバーはお互いに影響しあう関係である。
- ③チームメンバーが共同するために情報共有は不可欠。

### 介護施設におけるチームの取組み（参考）テキストより

No.	分類	内容
1	介護業務等	介護業務、委員会、行事、個人情報管理
2	設備・備品管理	設備・備品、消耗品の管理、(介護)機器・用具の点検
3	経営参画	目標の決定と管理、コスト管理
4	労務管理	勤務調整、勤務表の作成、健康管理、人事考課等
5	リスク管理	介護事故、感染症、災害時対応、緊急対応(停電、断水等)
6	人材育成・確保	研修計画、実習生の受け入れ
7	地域との連携	地域交流、地域ケア会議、見学、体験、ボランティア
8	会議運営	各種会議の企画、参加
9	その他	届出、調査への協力

### 2) チームでの役割（リーダーシップとフォロワーシップ）

#### ①リーダーシップ

チームをまとめる力、目標へ導く力

- ・チームの経験や緊急性によっては強い導き、経験のあるメンバーの場合は主体性や自立性を重視したものが良い。

#### ②フォロワーシップ

チームの目標達成のためにフォロワーがリーダーを支える機能  
指示に従って動くことだけでなく、主体的に動く力

- ・介護福祉士はさまざまなチームに属することになり、リーダーシップ、フォロワーシップ、2つの力が求められる。
- ・介護福祉士の仕事は24時間365日の暮らしを支える仕事。1人でこれを担うことは難しい。介護の仕事はチームの仕事。いつも力のあるリーダーが現場にいるわけではない。  
フォロワーとしてリーダーの役割や業務を常に意識する必要がある。
- ・力あるチームは、リーダーシップとフォロワーシップがバランスよく機能

## 発表2

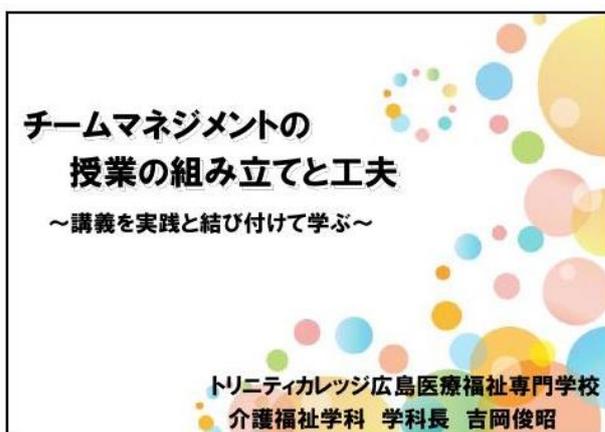
### テーマ「チームマネジメントの授業の組み立てと工夫」

～講義を実践と結び付けて学ぶ～

学校法人木村学園トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科  
学科長 吉岡 俊昭 氏

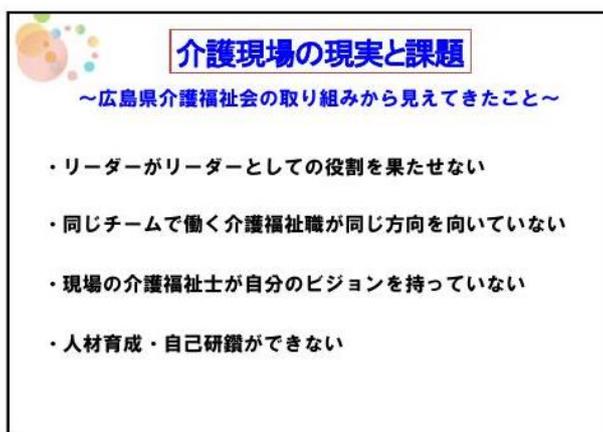
#### 1. 発表概要

トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校では、新カリキュラムから追加されたチームマネジメントを、昨年度からカリキュラムにとり入れている。今の介護現場を見てもチームが機能していない現状もあり、課題となっていることのひとつが、介護福祉士がチームをマネジメントできない現実である。養成校としてチームマネジメントの授業を加えることは難しいことではないが、学生にとってより良い学びにするためには講義だけで伝えることは難しいと考えた。講義での学びがイメージしやすいように、実践的な学びの社会貢献活動という授業を新たに加え、チームマネジメントとリンクさせることでより学びを深めることができるのではないかと考え、現在取り組んでいる。



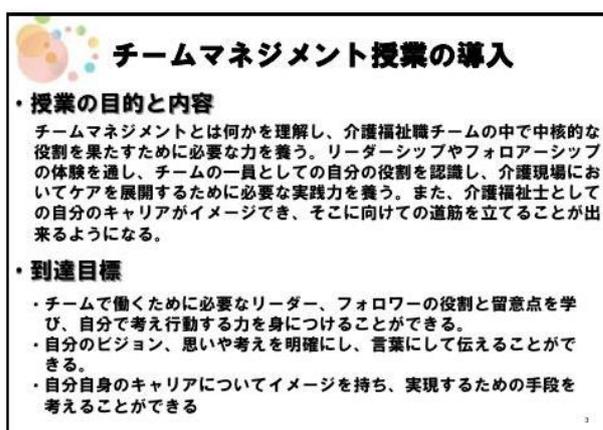
**チームマネジメントの  
授業の組み立てと工夫**  
～講義を実践と結び付けて学ぶ～

トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校  
介護福祉学科 学科長 吉岡俊昭



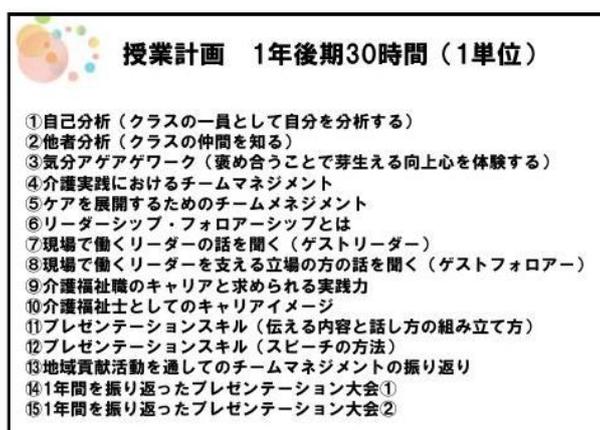
**介護現場の現実と課題**  
～広島県介護福祉会の取り組みから見てきたこと～

- ・リーダーがリーダーとしての役割を果たせない
- ・同じチームで働く介護福祉職が同じ方向を向いていない
- ・現場の介護福祉士が自分のビジョンを持っていない
- ・人材育成・自己研鑽ができない



**チームマネジメント授業の導入**

- ・ **授業の目的と内容**  
チームマネジメントとは何かを理解し、介護福祉職チームの中で中核的な役割を果たすために必要な力を養う。リーダーシップやフォロアーズの体験を通し、チームの一員としての自分の役割を認識し、介護現場においてケアを展開するために必要な実践力を養う。また、介護福祉士としての自分のキャリアがイメージでき、そこに向けての道筋を立てることが出来るようになる。
- ・ **到達目標**
  - ・ チームで働くために必要なリーダー、フォロワーの役割と留意点を学び、自分で考え行動する力を身につけることができる。
  - ・ 自分のビジョン、思いや考えを明確にし、言葉にして伝えることができる。
  - ・ 自分自身のキャリアについてイメージを持ち、実現するための手段を考えることができる



**授業計画 1年後期30時間（1単位）**

- ①自己分析（クラスの一員として自分を分析する）
- ②他者分析（クラスの仲間を知る）
- ③気分アゲアゲワーク（褒め合うことで芽生える向上心を体験する）
- ④介護実践におけるチームマネジメント
- ⑤ケアを展開するためのチームマネジメント
- ⑥リーダーシップ・フォロアーズとは
- ⑦現場で働くリーダーの話聞く（ゲストリーダー）
- ⑧現場で働くリーダーを支える立場の方の話聞く（ゲストフォロワー）
- ⑨介護福祉職のキャリアと求められる実践力
- ⑩介護福祉士としてのキャリアイメージ
- ⑪プレゼンテーションスキル（伝える内容と話し方の組み立て方）
- ⑫プレゼンテーションスキル（スピーチの方法）
- ⑬地域貢献活動を通してのチームマネジメントの振り返り
- ⑭1年間を振り返ったプレゼンテーション大会①
- ⑮1年間を振り返ったプレゼンテーション大会②

## チームマネジメントを実践的に学ぶ工夫

1年生、2年生がチームになって活動する社会貢献活動の導入  
毎週水曜日の午前中を活動の時間として設定

2年生はリーダーシップ、1年生はフォロアーシップを意識して取り組む指導

学生主体でチーム内の活動の企画、運営、評価、全てを行う。

地域包括支援センター、地区社協、民生委員、老人クラブなどの連携

介護福祉士が地域とかがわる必要性を意識できる

## 社会貢献活動の活動内容

	活動内容	関連機関等
1	トリニティ楽々体操の企画・運営・実施	地区社協、民生委員 町内会、地域包括、老人会
2	地域清掃、公民館活動	
3	地域の高齢者デイサービスを通しての活動	町内会・高齢者施設
4	地域の障害者デイサービスを通しての活動	町内会・障害者事業所
5	近所のスーパーでの介護予防体操	地域包括
6	地域の花壇や畑のお手伝い、買い物の付き添い	地域包括、老人会
7	地域で行う体カづくり活動のお手伝い	地域包括、老人会
8	健康体操のDVDの作成	高齢者施設

1, 2年生を一緒にした10人程度の8グループで活動

## トリニティ楽々体操 ペタンクサークル活動



## 学生主催の地域高齢者との忘年会



## 公民館でお楽しみ会の開催



## 健康体操のDVD作成



## 成果と課題

チームマネジメントを講義だけで伝えて行くには学生への学びに限界があると考え。そのため、講義での学びをできるだけ実践として展開して工夫が必要だと考え、チームマネジメントと社会貢献活動をリンクさせながら学びを深めることにした。その結果、学生一人一人が自分の役割を理解し、次々出てくる課題に対して、チームで解決しようとする姿勢が見られるようになった。

今後は就職した際にチームマネジメントでの学びを介護職チームの一員としてどうケアに繋げていけたのかを検証していく必要がある。また、育てた学生がチームのリーダーとして、フォロアーとして組織や地域でどのように学びを活かすことができたのかも評価していくことが必要だと考える。介護福祉士に必要なケアに対する知識や技術と共に、チームをマネジメントする力は今後は更に介護現場に求められる力の一つであり、必要な力である。

私たち養成校が先頭に立ってチームマネジメントができる介護福祉士のリーダーを養成していかなければいけないと思っている。

## 外国人留学生養成教育のみらい

## －国家試験合格に向けての教育事例－

## 主 旨

昨今、我が国における介護業界の人材不足解消のため、平成29年9月1日より正式に就労ビザとして認められた在留資格「介護」が創設された。その後、介護福祉士養成施設において外国人留学生の国家試験が始められている。しかし、介護福祉士国家試験の第33回試験において全国の合格率は71.0%、介護福祉士養成施設においては72.9%であり、留学生の全国平均は34.1%となっている。各養成校から受験はしているが合格者が少ないという現状である。一般生そして外国人留学生の介護福祉士国家試験合格にむけた教育内容の見直しは急務であると考え、このことを踏まえて、現在、外国人留学生の教育を実施し介護福祉士国家試験合格率の高い養成校の発表より、各養成校の学びおよび意見交換の場となることを主旨とする。

## 発題者：

関戸 かおり 氏（専門学校アリス学園 介護福祉学科）

## 【プロフィール】

平成2年金沢医科大学附属看護専門学校に入学、平成5年看護師免許取得  
平成5年より7年間金沢医科大学病院勤務。

平成13年介護支援専門員資格を取得し、居宅介護支援事業所で在宅高齢者のケアマネジメントを行い、その後13年間特別養護老人ホームや認知症対応型共同生活介護、地域包括支援センターなど高齢者施設・事業所において、看護師・介護支援専門員として、高齢者福祉に携わる。平成26年より専門学校アリス学園にて、介護福祉士の養成に携わり、現在に至る。

## 専門科目

こころとからだのしくみ全般、医療的ケアなど。

平成28年より、学園での国家試験対策担当となり、学生の国家試験合格に向けての指導にあたっている。

彦坂 亮 氏（日本福祉大学中央福祉専門学校 介護福祉士科）

## 【プロフィール】

愛知大学大学院 経済学研究科 修士課程

愛知淑徳大学大学院 医療福祉研究科 博士後期課程

国家試験対策担当、領域「人間と社会」の科目編成担当、社会福祉士科の科目担当

日本福祉大学等非常勤講師、介護職員初任者研修講師。

## 発表 1

### テーマ「キャリア教育の一環としての国家試験対策

～留学生に何が求められているか～

アリス国際学園 専門学校アリス学園 介護福祉学科  
専任教員 関戸 かおり 氏

#### 1. アリス学園について

アリス学園の“強み”として、全国でも珍しい、日本語学科と介護福祉学科が併設、または分校としてあり、介護福祉士を目指す学生は、日本に入国してから、半年から2年間日本語学科で日本語と、介護のことばを勉強してから、入学してくることで、日常会話はまったく問題ない状況であること、また、介護福祉学科入学の要件として、日本語能力試験（JLPT N3）以上が必要であるということとなっている。

介護福祉学科入学後も、日本語教師による「日本語補講」を行い、専門用語の理解、実際の国家試験の問題を使用し、文章の言い回し、表現などの説明・指導を行ってもらっている。

#### 2. 特徴・対応について

介護福祉学科入学後は、毎日の授業に加え、授業の空き時間は「補講」とし、留学生は全員学校で学習する時間としている。また、週に2回は、放課後にも1時間学校での学習する時間としており、1年次から学習を習慣化することを行っている。

毎日の授業では、各科目の担当教員には、国家試験を意識した授業を行っていたきたいことを常日頃から依頼し、それぞれ創意工夫した授業の実施をしている。

1年次より、介護福祉士国家試験対策授業を、アリス科目として行い、より早く国家試験を意識し、学生にも重要性を理解してもらっている。

2年生になってからは、毎月1回の校内模試及び公的模試を行い、現在のそれぞれの実力と、何に躓いているのかを個別に面談し、弱点の克服と、得意科目の点数をどう伸ばすのかを学生と一緒に考えることを行っている。

長期休み（夏季休暇・冬期休暇）中も、アルバイトの調整もしながら、週に2回は学校に登校し、自己学習や模試を実施している。

## 発表 2

### テーマ「本校の外国人留学生の対応について一入学試験から、国家試験まで」

学校法人日本福祉大学 日本福祉大学中央福祉専門学校 介護福祉士科  
専任教員 彦坂 亮 氏

#### 1. 本校の外国人留学生受け入れの考え方、入試制度

文部科学省において大学のグローバル化が確定し、本校母体の日本福祉大学は研究・教育のグローバル化に取り組み、本校でも介護現場で外国人労働者との協働を目的に 2018 年度より外国人留学生の受け入れを開始した。定員は、翌年度入学予定者数の 1～2 割とし、N 2 相当を条件とし入試に向け、事前面談で学習意欲や学習環境について把握し 4 年で 16 名を受け入れた。教育方法の検討や課題の整理を重ね、大学のグローバル化政策推進委員会、日本語センターと連携を図り学生をサポートしている。

#### 2. 入学してから一年の取り組み

入学後に留学生向けのオリエンテーションを行い、そして月 2 回程度の日本語クラスを開講している。教員は各講義のレポートや提出物などから理解状況について、適宜確認をしている。意味は理解できても日本語表現が難しいことから、レポートの表現方法などを指導している。テキストに掲載されているような言葉は書けるようになるが、実施したことや考えを表現することが難しく、日記を課題に出し、今日あった出来事やそれについて思ったことなど記入させ、添削指導をしている。学生生活に慣れるために日常での教員との関わりを密にして、不安になることがないように努めている。

#### 3. 実習

年間 10 週間の実習では、事前に配属施設へ外国人留学生の受け入れの相談をしている。日本語検定レベル、学習意欲、生活面、宗教上の配慮など情報提供をし、受け入れを検討していただいている。施設側は初めて外国人留学生を受け入れる時は指導方法について困惑を示していたが、日本人学生と同様の指導体制、評価基準を依頼した。実習前・中・後の課題では、文字数不足や語彙力が不十分なため個別指導を受けながら改善している。利用者との関わりでは丁寧な関わりができ、施設でトラブルもなく実習を履修している。

#### 4. 国家試験対策

過去問や模擬試験の時間は、留学生も日本人と同じ 110 分で設定し、速く読み解いていくことを何度も促している。そして模擬試験の場合、実際にかかった時間を計測し、読み返す時間がどれ位あったか確認をしている。留学生一人ひとりによって、対応が異なるが、一例では日本語の理解が不安定な留学生には、点数の低い科目の解説をノートに転記させ、その後問題に取り組むことで、理解力が上がったことを自覚させた。12 月には、希望者に対して、教員による口頭試問後、解説するスタイルを実施し、1 月には、留学生全員が過去問を繰り返し解くことに集中させている。

## 在宅における看取りと生活支援の必要性

## 主 旨

現在、地域包括ケアシステムの構築が進められている。ここでは、「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる」ことを目標としている。これは、人生最期の場所も自身の希望により選択できる、という最期まで尊厳を尊重した生き方である。その結果、死を迎える場所も病院に限らず、多様化してきており、介護福祉士が看取りに立ち会う機会も増えている。しかし、介護福祉士教育において、看取りとその場面での生活支援について十分には触れられていない。また、昨今の家族・地域社会の変化により、学生にとって看取りは身近なものではなくなっている。そのため、将来、介護福祉士となって看取り場面に直面しても、本人の望むその人らしい暮らしを支えきれない可能性がある。

そこで、この分科会では在宅（地域）における看取りケアの実践報告をもとに、看取り場面における介護福祉士の役割と介護福祉士教育において必要とされる内容を探りたい。

## 発題者：

大原 昌樹 氏（綾川町国民健康保険陶病院院長）

## 【プロフィール】

昭和 60 年自治医科大学医学部卒業。

香川県立中央病院、三豊総合病院を経て、平成 17 年から綾川町国民健康保険陶病院院長。綾川町介護老人保健施設あやがわ施設長兼務。

平成 7 年より瀬戸内総合学院（現四国学院大専門学校）非常勤講師。香川県介護支援専門員協議会会長、香川県医師会常任理事、四国老人福祉学会会長、香川大学・愛媛大学・神戸大学・自治医科大学各医学部非常勤講師、全国国民健康保険診療施設協議会常務理事、香川シームレスケア研究会代表世話人。

越智 和子 氏（琴平町社会福祉協議会会長）

## 【プロフィール】

昭和 52 年 四国学院大学文学部社会福祉学科卒業

平成 13 年 川崎医療福祉大学大学院医療福祉学専攻課程修了

昭和 58 年 琴平町社会福祉協議会福祉活動専門員

平成 22 年 琴平町社会福祉協議会事務局長

平成 27 年 琴平町社会福祉協議会常務理事兼事務局長

令和 2 年 琴平町社会福祉協議会会長

全国社会福祉協議会地域福祉推進委員会委員長、香川県社会福祉審議会委員、香川コミュニティソーシャルワーク実践研究会代表、香川県ソーシャルワーカー協会理事、日本地

域福祉学会四国部会担当理事、香川県内社会福祉協議会地域福祉推進委員会委員長、香川  
おもいやりネットワーク事業運営委員会副委員長、かがわ後見ネットワーク運営委員、小  
豆島町福祉のまちづくり事業委員

**篠田 由加里 氏**

(社会福祉法人牧羊会特別養護老人ホームエデンの丘 看護師 EOL ケア委員会前委員長)

【プロフィール】

一般病院等の看護師、特別養護老人ホームエデンの丘看護師及び EOL ケア委員会委  
員長を経て令和 3 年より現職

**木下 由美子 氏**

(社会福祉法人牧羊会特別養護老人ホームエデンの丘デイサービスセンターえんがわ 介護福祉士主任 )

【プロフィール】

特別養護老人ホームエデンの丘デイサービス介護職員、生活相談員を経て平成 30 年  
度よりエデンの丘デイサービス主任

## 発表 1

### テーマ「訪問診療から見た在宅看取りと介護福祉士の役割」

綾川町国民健康保険陶病院  
院長 大原 昌樹 氏

訪問診療を始めて 35 年となり、病院、施設、在宅で多くの方を看取ってきた。また、介護福祉士養成校非常勤講師も 25 年余りになるので、その経験を元に発表したい。

高齢社会の進展に伴い、在宅、施設での看取りは増えてきており、このコロナ禍でさらに増加している。病院の面会制限から在宅看取りを希望する患者・家族も増えているのが実態である。看取りの原因となる疾患は、がん、老衰、神経難病など疾患はさまざま経過も千差万別、場所も在宅、施設、病院といろいろであるが、共通しているのは、最期の苦痛緩和と介護の必要性である。苦痛に関しては、麻薬等の薬剤で身体的な痛みはかなり軽減できるようになったが全くなくなるわけではない。また、精神的な痛みや不安は誰しもみられる。生活支援はどこにいても必要であるが、病院、施設では介護職員や看護師が主に行うのに対し、在宅では家族が介護する割合が高く、その負担感がしばしば問題となる。看取り期になると医療依存度も上がるが、介護を含めた生活支援の必要性も高まる。身体的な介護負担はもちろんであるが、むしろ今後起こりうることに対する不安感がより大きいことが多い。こういう時に最も必要と感じるのは、日常の身近な不安に対して話を聞いてくれて、気軽に相談できる相手の存在である。さりげなく生活支援をしながら患者、利用者と会話し不安を和らげ、困った問題があれば訪問看護師や介護支援専門員につなぐことのできる介護福祉士、訪問介護員の存在には助けられることが多い。

日本では看取りは医療が前面に出やすいが、実は医療者のできることには限界がある。がん患者の緩和ケアは、日本では緩和ケア病棟など医療機関で行われているが、欧米は福祉施設に近く、介護職や宗教家が主に運営しており、そこに医師や看護師が訪問する形態である。医療職、介護職どちらが優位ということではなく、どちらも必要なのである。介護福祉士も自信を持って看取りの現場に加わってほしい。

このようなことから、教育・人材育成に関しては、技術的な面はもちろんであるが、在宅においても最も身近な存在であることの自覚、精神的なケアの重要性を認識することがまず重要と思う。これには、傾聴やコミュニケーション能力が求められる。また、看取り期は特に状態が変化しやすい。医療職や地域との連携は元より、同職種間での情報共有の重要性についても学んでほしい。これには、コロナ禍で難しい状況があるかもしれないが、在宅介護事業所での実習やサービス担当者会議、地域ケア会議への参加の経験が将来役立つと思われる。そして今後連携にはますます ICT が活用されると考えられ、それについて学ぶ機会があれば望ましいと考えている。

## 発表 2

### テーマ「特養としての在宅看取りへのかかわり」

社会福祉法人牧羊会特別養護老人ホームエデンの丘

看護師 篠田 由加里 氏

介護福祉士主任 木下 由美子 氏

#### 1. はじめに

特別養護老人ホームエデンの丘では、平成 26 年の嘱託医の変更が積極的な看取り取組みへのきっかけとなった。看取り件数が増加したことで施設看取りの重要性が高まり、平成 29 年に看取りプロジェクトが発足。医療連携が密になることで施設看取りに対する安心面が強化された。

しかし、看取りをすすめていく中で ①意向確認の適切な時期と方法（ACP）の確立ができていない ②看取りへの流れと手順の浸透が不十分 ③職員の看取りスキルの差 などの問題点が表面化してきた。

そこで、平成 30 年 EOL ケアチームを編成し、これらの課題に取り組んだ。その過程で入所看取りから在宅看取りへ変更となり、自宅で最期を看取った事例、デイサービスとして在宅看取りを選択された利用者のご家族への関わりについての事例を通し、学んだ課題について紹介する。

#### 2. 事例・ポイント

##### ① 80 歳、男性

繰り返しの ACP の中で、ご家族の強い思いで施設看取りから在宅看取りに変更。退所して 10 日後、家族に看取られながら亡くなった。

##### ポイント

1. 意向確認の時期、カンファレンス開催のタイミング（ACP サイクルが効果的に回っているか）と実現へ向けての迅速な動き（スピード）
2. 在宅看取りをおこなうための家族のマンパワーと覚悟  
ケアマネジャーの理解と効果的な福祉資源の活用（多職種協力支援）
3. 主治医の理解と医療のフォローアップ体勢

##### ② 94 歳、女性

デイサービスを利用していく中で、体力の低下により移動も難しくなりながらも、ご家族とリスクを共有しながら、ギリギリまでデイを利用し、在宅で看取った。

##### ポイント

1. 家族の介護力と覚悟
2. ケアマネジャーの理解（知識）と迅速な対応
3. 在宅医、訪問看護による医療のサポートと理解  
適切な福祉資材の活用（多職種協力支援）
4. 在宅看取りのなかでのデイサービスの位置づけとは  
リスク管理とニーズに対する支援

#### 3. 課題

在宅、施設いずれにしても看取りを成功させるためには必要な条件があり、なにが不足してもご本人、家族が納得する看取りは実現しない。

- 看取りを円滑に進めるためのシステム構築と運営

- 看取りケアに対する経験が豊富な人材、スキルアップ
- 意向確認の適切な時期(タイミング)
- ケアマネージャーのスピーディーで的確な支援の提供(イニシアチブ能力)と多職種連携
- リスク管理
- 看取りに関わる人たちの精神的ケア

これらの条件をスキルアップさせていくしかないと考える。今後も多職種連携のもと「その人らしく生きる」「その人の最善」のために何ができるかを考え、寄り添うケアを続けていきたい。

### 発表3

#### テーマ「最期まで安心して暮らせる地域づくりの支援」

琴平町社会福祉協議会  
会長 越智 和子 氏

- ・地域共生社会の実現を目指し、住民主体のまちづくりを担う社会福祉協議会としての取組。
- ・一人暮らし高齢者や障害がある人で親族などの支援が得られない人などが最期まで安心して暮らせるため地域生活総合支援サービスを実施。
- ・これまでも「一人ひとりを大切に」「地域での生活を支える在宅福祉サービスの提供」を住民主体のまちづくりとともに進めてきた。
- ・社協としてコミュニティソーシャルワーク実践は、福祉サービスを必要としている人やサービスを利用している人の地域社会生活への支援の中でニーズを発見することが大切。
- ・公的サービスだけでは十分に対応できない一人ひとりの求めていることや必要と思える支援をつくるのが地域では求められる。

## 介護最前線のリアル（撮影）に拘る理由

講演者： ケアワーク・フォトライター

野田 明宏 氏

## 講演者紹介

野田明宏（のだ あきひろ）

ケアワーク・フォトライター。1956年岡山市生まれ。岡山東商業高校では野球部に所属し、第55回夏の甲子園に出場。国土館大学政経学部卒業後、バックパッカーとして海外50か国を旅する。その後、中央アメリカではグアテマラを中心に2年間滞在し、発展途上国の政治、経済を中心にルポ記事を執筆する。内戦下のエルサルバドルでは、政府軍パトロールに同行取材する。帰国後、両親を看取る。父の介護で初めて下の世話を体験。母の介護は在宅で10年。この経験をきっかけに、老人介護関連の執筆活動、講演などを続け現在に至る。

主な著書は、『アルツハイマーのお袋との800日』、『アルツハイマーの母をよろしく』、『アルツハイマー在宅介護最前線』など多数。テレビ東京から『和ちゃんとオレ』は映画化され、プライムビデオでも配信されている。

## 講演内容

なぜ？ 在宅でも施設介護であってもリアルな撮影に拘るのか？

それは父を2年、母と一緒に交替で、岡山市民病院の六人部屋。約30年前です。父のベッド側で介護し、ベッド下で眠りました。この私の介護体験が出発点としてあります。

他さまに迷惑をかけてはいけません。ストレスだらけ。

とはいえ、隣ベッドの方はイヤホン付けずにテレビを観ている。父はウルサイと言ひ、私がイヤホンを装着して欲しい、とお願いする。これをクレームと取られる。ストレスは増します。リアルです。

母はアルツハイマーを患ひ、10年介護でした。看取りは長い介護の中の終着点。悲しいですが、イライラしたりはしません。

通過点がシンドイのです。母が無意識のうちに失禁するようになります。便が付着します。それを手洗いしてから洗濯機に入れますが、その瞬時の切なさは心が凍ります。リアルです。

書き出したら切りがありません。切りがないほど、悲しみ 哀しみ 切なさ他と遭遇してきて、リアルに拘らないわけにはいきません。

そして、介護最前線のリアルを写真と共に追っていきたいと思います。

## 表紙のイラストによせて

表紙のイラストは、『ヘルプマン！』のくさか里樹さんから提供していただきました。

思い起こせば、中国四国ブロック会主管で、高松で開催された 2006 年度の全国教職員研修会（以下、研修会）の企画にご協力いただいた時以来のお付き合いです。

どうしても研修会で取り上げたくて、飛び込みで講談社に電話を入れると、普段はその時間には絶対にいないという『ヘルプマン！』担当の編集者に奇跡的につながり、さらに当時のブロック会長が「くさか里樹さんって、高知の人で、学校にもよく取材に来るよ！！」と叫び、話はトントン拍子に進み、研修会 3 日目にシンポジウム『ヘルプマン！』が描く“あたりまえの介護“をめぐって”という地域公開講座が実現してしまいました。まさにご縁があったとしか言いようがありません。

サラリーマン向けの雑誌『イブニング』で、誰にも言えない、聞けない、でも誰も避けては通れない介護問題を 2003 年からとりあげ、読者アンケートNo.1で、介護現場からも取材依頼が絶えなかった『ヘルプマン！』。それに緻密な資料収集と丁寧な現地取材で応える『ヘルプマン！』でした。

くさかさんは、介護分野での様々な企画やイベントにも協力を惜しみませんでした。そして、私たちもまた情報提供や取材に協力してきました。今回の表紙のイラストも、「介護の日フェスタ in 広島」のシンボルマークとして 6 年余り使われたものです。

その後も、くさかさんは、介護福祉士養成施設の入学者が減少してきたと聞けば、養成施設の授業に参加し、『ヘルプマン！』で「介護福祉学生編」を連載してくれました。

また 3.11 東日本大震災時には、一緒に避難所生活を送り、被災地のリアルな現実を『ヘルプマン！』で伝えながら、生活支援に奔走する介護福祉士会のボランティアたちに「名もなきヒーローたち…“介護戦隊ヘルプマン”万歳」とエールをおくっています。

『ヘルプマン！』は 2014 年末に、『週刊朝日』（朝日新聞出版）に『ヘルプマン！！』としてその発表の場を移し、その後、『新生ヘルプマン ケアママ！』（第 4 巻が 11 月 5 日に発売）として引き継がれています。

でも残念なことに、「ヘルプマン」シリーズは、この 9 月末をもって完結とのこと。この研修会が 1 年延期となったことで、表紙のイラストだけでなく、第 1 分科会で、今年の 8 月発刊の『ヘルプマン！』に学ぶ介護過程を取り上げることができ、くさかさんのビデオ出演も実現しました。これもまたご縁の延長でしょうし、今後も続くことを願っています。

連載 18 年目、そして私たちが出会って 15 年余り、私たちが共にあった時間は掛け替えのないものでした。「ヘルプマン」シリーズは終了しても、それを通して伝えられた数々のメッセージを思い起こしながら、リアルヘルプマンを育て、共に歩みを進めていきたいと思えます。

中国四国ブロック会一同



## 学校法人 聖カタリナ学園 聖カタリナ大学

～人のやさしさを学ぶ。人が暮らしやすい世界を創る。～



### ● 北条キャンパス

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部

◇社会福祉学科

◇人間社会学科

◇健康スポーツ学科

聖カタリナ大学短期大学部 保育学科

TEL : 089-993-0702 FAX : 089-993-0900



### ● 松山市駅キャンパス

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 ◇看護学科

大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）2022年4月開設

TEL : 089-947-0502 FAX : 089-947-0505



## 今治明德短期大学



豊かな人間性と優れた専門能力を  
兼ね備えた人材を育成する

### ▶ ライフデザイン学科

- ・介護福祉コース
- ・食物栄養コース
- ・調理ビジネスコース
- ・国際観光ビジネスコース

### ▶ 幼児教育学科

〒794-0073

愛媛県今治市矢田甲 688 番地

☎ 0898-22-7279





こども未来科



医療ケア相談室  
事務室

社会福祉メディカルソーシャル科



地域に貢献できる  
福祉・保育・教育・医療・スポーツ分野のプロになる。



柔道整復師科



鍼灸師科

介護福祉科

河原学園

河原医療福祉専門学校

〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3丁目3-13

介護福祉科 社会福祉メディカルソーシャル科 こども未来科 柔道整復師科 鍼灸師科

0120-294288 ● FAX : 089-946-4555 ● E-mail : emw@kawahara.ac.jp



▲学校ホームページ

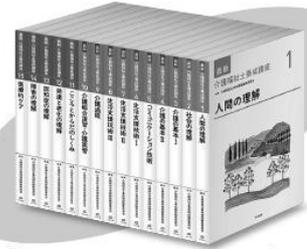


一般社団法人

愛媛県介護福祉士会

公益社団法人  
日本介護福祉士養成施設協会  
編集協力

2022年度採用に向けて  
**最新「介護福祉士養成講座」  
全15巻を〈第2版〉として  
改訂します!**



編集：介護福祉士養成講座編集委員会  
B5判/2色刷(11巻・15巻はフルカラー)  
6巻・7巻・15巻にはAR動画付き

◎養成施設の教員向けに実施したアンケートの内容を適宜反映

◎介養協がとりまとめた「新カリキュラム 教育方法の手引き」を参考に、本文内容を充実

- |          |               |                |           |
|----------|---------------|----------------|-----------|
| 1 人間の理解  | 5 コミュニケーション技術 | 9 介護過程         | 13 認知症の理解 |
| 2 社会の理解  | 6 生活支援技術Ⅰ     | 10 介護総合演習・介護実習 | 14 障害の理解  |
| 3 介護の基本Ⅰ | 7 生活支援技術Ⅱ     | 11 ことごとからだのしくみ | 15 医療的ケア  |
| 4 介護の基本Ⅱ | 8 生活支援技術Ⅲ     | 12 発達と老化の理解    |           |

**からだからケアがわかる本  
しくみ 変化 ケアのポイント**

著：秋山昌江、白井孝子  
B5判/188頁 定価2,640円(本体2,400円+税10%)  
ISBN978-4-8058-8381-5

2021年11月発行



会話や食事、歩行などの生活場面ごとに、「からだのしくみ」「変化」「ケアのポイント」に沿ってわかりやすく解説!

介護を学ぶ学生や介護職が、ケアの根拠としての「からだのしくみ」を理解できる一冊。食べる、移乗・移動するなどの生活場面ごとに、「基本的なからだのしくみ」「変化」「ケアのポイント」で構成。「生活支援技術」「ことごとからだのしくみ」等のサブテキストにも最適。

現場で役立つ 介護・福祉リーダーのための

**チームマネジメント**



著：井上由起子、鶴岡浩樹、  
宮島渡、村田麻起子  
A5判/216頁  
定価2,420円(本体2,200円+税10%)  
ISBN978-4-8058-5957-5

2019年11月発行

高齢者や障害者を支援するチームをまとめ、支援の質を高めるためのメソッドが詰まった一冊。チームマネジメントの方法を、基本的考え方、リーダー論、人材育成、チーム運営の4つの視点から解説。各章ごとに実践事例を盛り込み、実践に結び付けながら体系的に学ぶことができる。



**本人の視点に基づく  
介護技術ハンドブック**

監修：上原千寿子  
編集：介護技術ハンドブック作成委員会  
B5判/148頁 定価2,200円(本体2,000円+税10%)  
ISBN978-4-8058-5948-3

2019年9月発行

介護を必要とする側(本人)の視点から介護技術を学ぶ一冊。本書では、移動・移乗、食事、排泄、入浴等の介護技術の手順を写真とともに示し、4つの本人視点(本人主体、本人の安心、本人の生活習慣、本人の意欲)をもちいて、介護の動作の一つひとつの意味について解説する。



こだわりのポイントはココ!  
**からだを正しく使った  
移動・移乗技術**

著：竹田幸司 B5判/152頁  
定価2,420円(本体2,200円+税10%)  
ISBN978-4-8058-8329-7

2021年6月発行

力に頼らない移動・移乗の介助を行うための、正しいからだの使い方を写真とともに丁寧に解説した一冊。ボディメカニクスの活用や手のあて方、力の入れ方など、細部までのこだわりが、負担のかからない介助につながる。WEBで見られる介助の実際の動画つき。



**認知症とともに  
あたりまえに生きていく**

支援する、されるという立場を超えた9人の実践  
編著：矢吹知之・丹野智文・石原哲郎  
著：藤田和子・大塚智文・鬼頭史樹・  
猿渡進平・前田隆行・六車由実  
A5判/310頁 定価2,420円(本体2,200円+税10%)  
ISBN978-4-8058-8333-4

2021年6月発行

「すべての人が認知症とともにあたりまえに生きる社会」に向け、私たちは何ができるのか。支援する側、される側という立場を超えた実践を続ける、認知症の本人、医師、支援者が、それぞれの挑戦や葛藤をふり返り、「これからの認知症ケア」のあり方を問う。



**利用者の“動き出し”を  
引き出すコミュニケーション**

「動き出しは本人から」を実践する102の言葉  
著：大堀具視 A5判/238頁  
定価2,200円(本体2,000円+税10%)  
ISBN978-4-8058-8291-7

2021年4月発行

「できそうな感じがしませんか?」「十分に力が入っていますよ」「家ではどうされていますか?」など、102の場面での具体的な声かけをもとに、利用者の言葉、表情、動き(=動き出し)を引き出すためのコミュニケーションについて解説した一冊。「動き出しは本人から」という、利用者主体の介護を行うためのかわり方のポイントがわかる。



利用者の思いに気づく、力を活かす  
**「動き出しは本人から」  
の介護実践**

編著：大堀具視 B5判/174頁  
定価2,420円(本体2,200円+税10%)  
ISBN978-4-8058-5853-0

2019年4月発行

介護技術で利用者をおかすのではなく、利用者の動き出しを待ち、適切な支援で動きをつなぐ。本書では、この「動き出しは本人から」の考え方と実践方法を丁寧に解説。「利用者主体」「自立支援」「安全・安楽」を実現する、「当たり前」で新しい介護の原則を提案する一冊。

DVD

利用者の思いに気づく、力を活かす  
**「動き出しは本人から」  
の介護実践**

監修：大堀具視  
DVD全1巻：収録時間122分  
価格13,200円(本体12,000円+10%)  
ISBN978-4-8058-5857-8

2019年4月発売



「動き出しは本人から」の効果と実践方法を映像化。現場で使える実践演習も多数収録した。事業所内研修に最適!

